

開封不要の

返戻郵便OCR処理モデル

ソリューションの特長

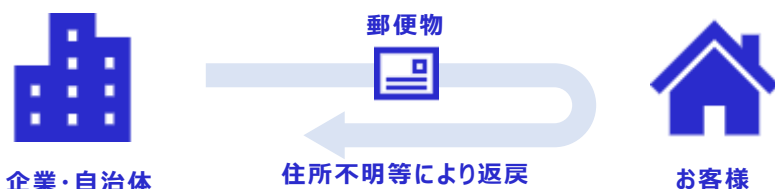
■汎用スキャナと従来型OCR認識ソフトで**安価に構築**

■圧着ハガキ・封筒は**開封不要**

■初回発送の郵便物を再利用でき**環境にやさしい**

返戻郵便とは？

- 企業や自治体からお客様宛てに発送した郵便物が、住所不明等により発送元に戻ってきてしまうものを指します。



発送元（企業・自治体）の返戻受付処理

- 返戻郵便物の記載情報から対象のお客様を特定し、現住所の確認等を行い、再発送する必要がある。
- 具体的には、返戻郵便物を一旦開封した上で、内容物をOCRでテキスト化して、対象顧客の特定を行うことが多い。

返戻郵便処理の課題

数量減少



- 従来に比べ、電子メールの普及で、郵便物の全体量が少なくなり、不着件数も減少している。

コスト高



- 不着件数が減少しているにもかかわらず、返戻郵便の処理に高額な特殊機器を使用している。

エコの必要性



- 加えて、従来機器では、返戻郵便物を一旦開封するため、再発送用の紙を再印刷する必要がある。

株式会社 KSインターナショナル

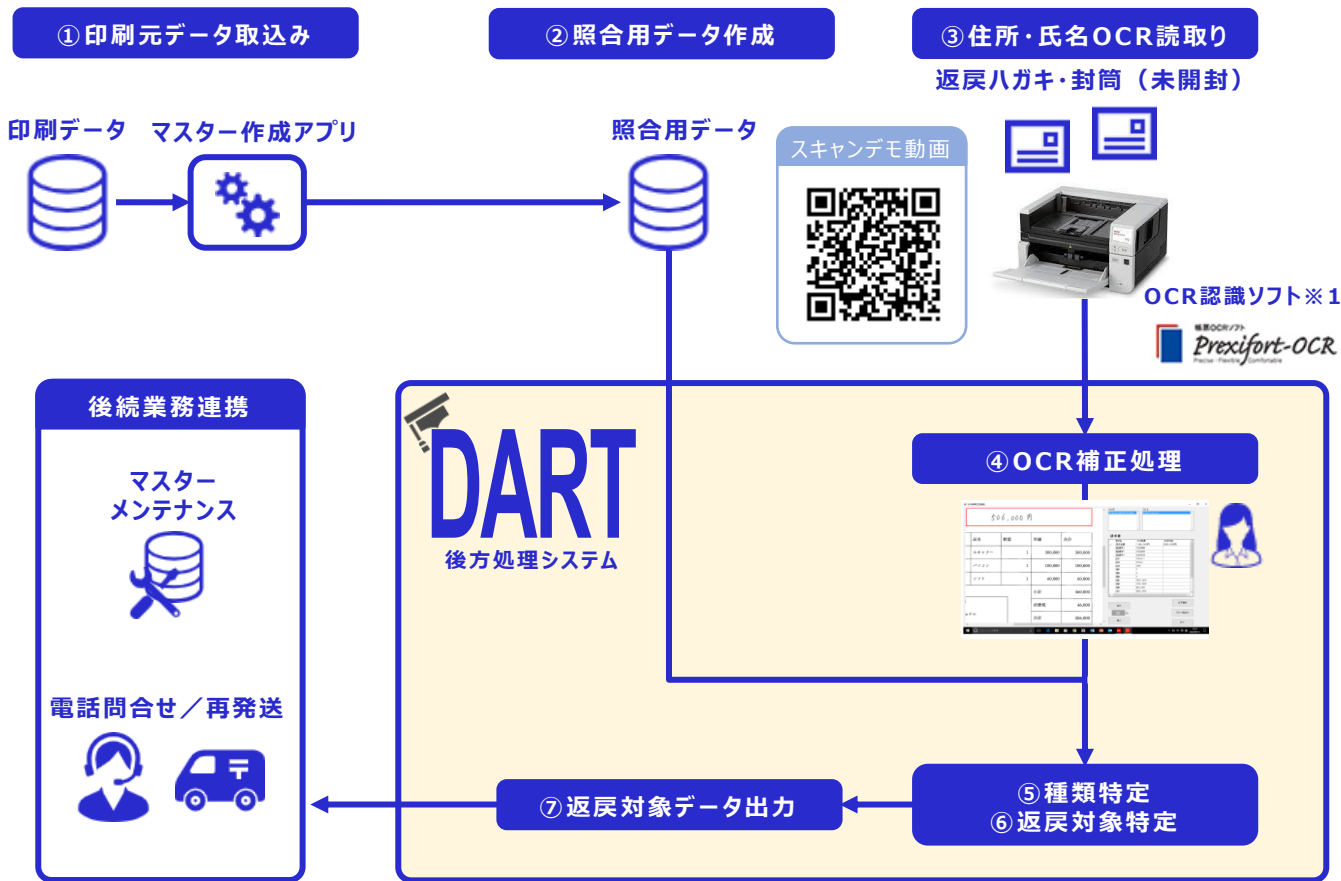
〒135-001 東京都江東区扇橋 2-1-7 3F



お問い合わせ・資料請求は
ホームページからお願いいたします。

https://ksin.jp/?page_id=20

記載内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。



【※1】スキャナ制御とOCR認識用に、別途PCが必要です。

- | | |
|---|---|
| 1 | 印刷元データをマスター作成アプリへ取り込む |
| 2 | 「照合用データ」を作成する |
| 3 | 未開封の返戻ハガキ・封筒をスキャナに取り込み、「宛先（住所・氏名）」をOCR認識ソフトで読取る |
| 4 | （必要な場合）帳票イメージを確認しながら、OCR不読文字の補正処理を行う |
| 5 | OCR読取り結果を後方処理システム「DART」に取り込み、返戻郵便の種類を特定する |
| 6 | 「宛先」と「返戻郵便の種類」をキーに、「照合用データ」とマッチングし返戻対象を特定する |
| 7 | 返戻対象のデータを出力する |

プラン別の標準価格

項番	プラン	カテゴリ	製品名等	初期費用	保守費用
1	A	スキャナ（低速） 85枚/分	S2085F スキャナ（コダックアリス社製） 制御ソフト：CPS Limited付	¥358,000	3年間無償
	B	スキャナ（中速） 130枚/分	i4650 スキャナ（コダックアリス社製） 制御ソフト：CPS Limited付	¥2,400,000	1年間無償
2		OCR認識ソフト	Prexifort-OCR（NTTデータ社製）	¥500,000	¥125,000/年
3		後方処理システム	DART（当社製）	¥1,800,000	別途ご相談
4		諸経費	搬入設置費用	¥100,000	-
プランA：小規模モデル合計（1A+2+3+4）※2				¥2,758,000	¥125,000
プランB：中規模モデル合計（1B+2+3+4）※2				¥4,800,000	¥125,000

【※2】スキャナ制御とOCR認識用PC費用は含んでおりません。カスタマイズは別途オプション費用がかかります。